

夢想心兵衛胡蝶物語前編

壹

~13
3845
1



阿へ13
號3845
卷1

從師學道魚千里



再編夢想

年夢胡蝶

物語
此亭翁戲作
一柳齋主人画

呈世功名黍一炊

胡蝶物語自叙

慎懃たる物ゆゑに凝るゆゑの夢と云ふは亦覺

てゆく所をうらぐ夫夢の形貌の影るを亦公神の

勞りて人目を閉る日は背けざるの影まふあり

志ありどもその影をえざる所の影まふの影まふ

あり昔莊子夢は胡蝶とありまふを柳と然と

し胡蝶也まふの意を得しはまふ子たるは

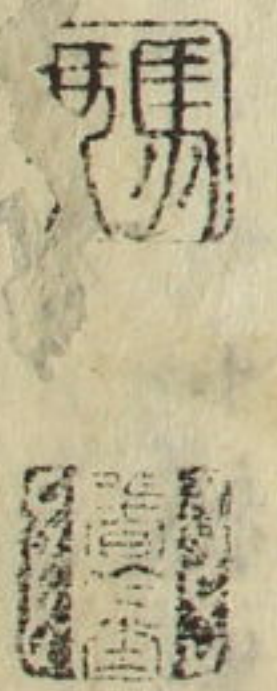
夢蝶物語自叙

夢想真悟胡語
九



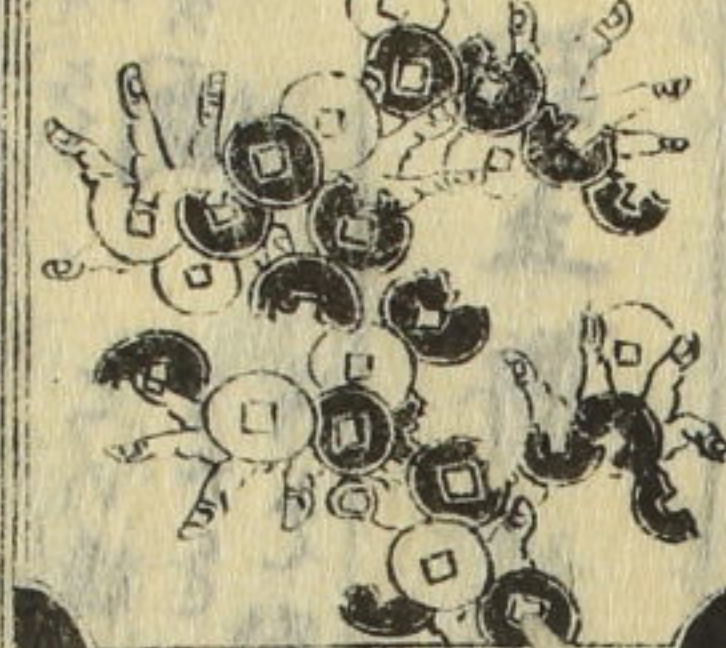
まろと俄然とくく覺てこれハ遠く若くくめ
莊子也莊子が爰又胡蝶とある歟胡蝶の爰ハ
莊子とある歟是の後ハ不執一事物の變化彊
弱、浮世之恰大夢ハ似たる善惡ハ莊子と胡
蝶の如く善の善なる我ハ我なる惡の惡なる我ハ
我たる是の後ハ疑ハ教育の夢ハ形を以て
覺醒者の夢に非ざるを以て知るべし




小の悪を多くも減少するが眼のまじりたる
まじりたる善なる性執りたるを以てみる性の
善なる化して悪となり性の悪なる化して善となり皆
是の起る所歟の形ハ後ハ亦異なるも夢に非ざる
あれハ是れこそそのゆくところを知らば

文化六年己巳六月 曲亭主人識



夢の形

鴟 <small>トビ</small> 腕 <small>ウデ</small> 止 <small>ト</small>	織 <small>オリ</small> 促 <small>セ</small> 慾 <small>カ</small>	梨 <small>リン</small> 次 <small>ジ</small> 阿 <small>ア</small> 太 <small>タ</small>
		

登 <small>トビ</small> 伊 <small>イ</small> 具 <small>具</small>	桐 <small>キ</small> 津 <small>津</small> 靑 <small>靑</small>	蟻 <small>アリ</small> 跡 <small>跡</small>
		

又またくくちちををととししみみ出出ありあり此此れれ一一多多多多ををららささるるべ
ああららままししるるももたたららずずににああららままししるるべ
ああららままししるるももたたららずずににああららままししるるべ
ああららままししるるももたたららずずににああららままししるるべ



いいんんららん
いいんんららん
いいんんららん
いいんんららん

わわささらら楓楓ののままはは茶茶ええののどどくく本本ののびびんんををうう
ららままししるるももたたららずずににああららままししるるべ
ああららままししるるももたたららずずににああららままししるるべ
ああららままししるるももたたららずずににああららままししるるべ



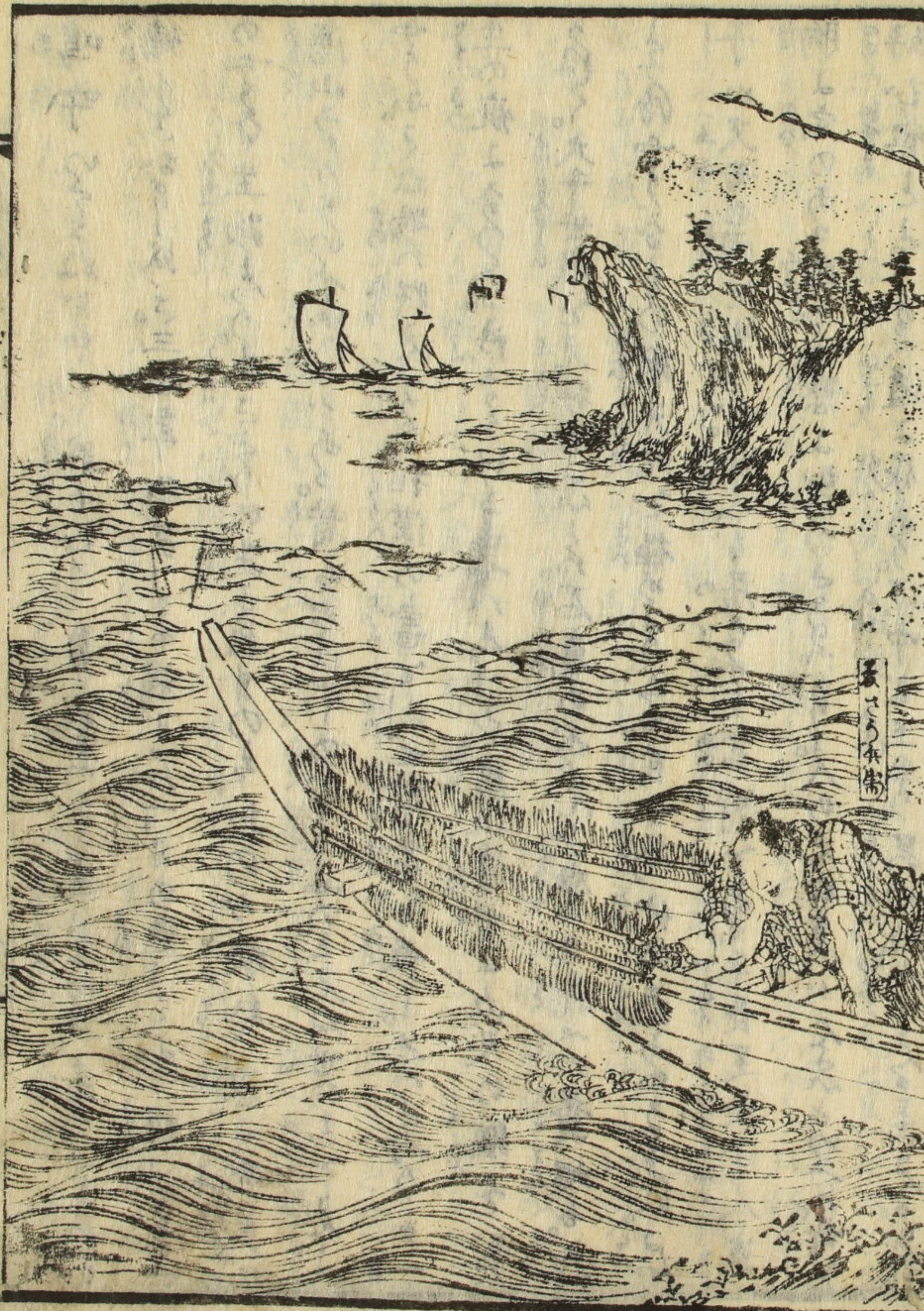
ここううののいいんんををああららままししるるべ
ああららままししるるももたたららずずににああららままししるるべ
ああららままししるるももたたららずずににああららままししるるべ
ああららままししるるももたたららずずににああららままししるるべ

ちんちん物いり。東海の鯨。徐西山の鳳。捕らへ。毛唐人の食。小判を買
 た。初鯨。くも。腹へ街道。茶漬。くも。咽喉。三才。を通る。ちんちん。こ
 して。後。又。齒。形。積。して。大夫。と。つ。つ。の。艶。書。設。同。松。そ。ん。ご。れ。の
 直。う。ら。も。り。を。と。く。バ。室。庫。の。膝。を。容。る。う。む。の。の。れ。の。ま。き。始。皇。の
 阿。房。も。原。憲。が。蝸。盧。も。宮。も。葉。屋。も。都。も。鄙。も。廣。い。と。陝。と。の。り。り。足
 踏。伸。し。て。寝。し。か。が。席。薦。一。疊。の。外。ハ。出。され。ど。さ。て。亦。衣。裳。ハ。五。尺。の。體。を
 累。ふ。ち。假。の。身。の。皮。蜀。江。の。錦。も。做。る。緇。袍。も。美。しい。と。志。す。う。れ。な。り。ふ
 づ。を。え。る。志。す。ハ。赤。裸。宗。向。院。の。土。と。り。て。れ。が。美。服。被。く。人。を
 して。羨。む。り。の。も。り。紗。綾。縮。緬。も。賣。鼻。禪。ハ。抗。鼻。禪。ほ。り。二。ぬ。る。ほ。う。擧
 げ。い。ち。も。麻。上。下。の。麻。上。下。の。道。理。を。合。点。され。ば。肩。と。膝。と。も。色。紙。あ。て。て
 る。帷。子。着。ち。も。二。伏。の。暑。れ。月。ハ。肌。際。ぬ。れ。も。あり。二。雨。で。ら。け。二。重。紙。子。の。巾

ちめても。白日青天。又。多。拭。被。つ。く。わ。く。女。も。あり。が。だ。る。ま。と。り。あ。る。衣。服。の
 美。悪。よ。ら。ぬ。あ。ら。ぬ。商人。の。よ。ら。衣。着。さ。う。と。と。古。今。の。序。者。の。よ。ら。さ
 ぐ。や。風。雅。でも。う。洒。落。でも。う。あ。ま。さ。せ。ま。う。驕。ま。る。い。く。せ。又。物。美。さ。を
 ち。て。高。い。り。の。と。ら。り。あ。ら。ぬ。宛。は。な。れ。ど。二。季。を。と。り。あ。を。と。り。借。小
 袖。流。行。模。倣。の。人。を。よ。め。た。ち。ん。ち。ん。と。さ。ま。と。一。つ。あ。へ。二。つ。あ。う。籠。後。で。被。て。出
 へ。水。が。ん。や。裋。前。ハ。質。屋。の。庫。へ。向。う。あ。る。も。い。と。さ。る。一。單。竟。衣。服。ハ。貴。姓
 を。こ。ら。ち。礼。儀。を。整。る。彩。色。な。れ。ば。蔽。れ。う。と。も。袴。を。引。け。清。た。る。も。お。太
 刀。と。さ。え。瘦。身。代。も。借。倒。さ。げ。天。々。授。つ。た。け。の。業。を。勢。めて。暇。あ。る。と。り
 と。り。ハ。青。表。紙。の。端。を。閑。た。昔。の。人。の。風。流。を。え。る。今。が。態。と。る。厚。え。ん。ま。の
 金。め。つ。く。苦。と。さ。る。ま。ハ。ま。ん。べ。天道。必。盈。る。成。缺。く。金。が。あ。れ。ば。も。づ。る。子。が。ほ。し。
 子。が。多。な。れ。ば。残。が。る。一。美人。ハ。馬。鹿。あり。醜。事。ハ。才。子。あり。氣。の。利。め。は。浮。氣。多

く。口はあれハ意地が強し。堪忍五兩と定め、小妻大綿が一皮で、女三
 四が、この相場まで。密夫の扱金より。武雨二分下直る。ちと川あり
 ぬる物。やと。ひとり。と。の吸物碗。十人前。は。足。は。紙。も。甘。堅。地。で。甲
 年。ま。の。ち。う。う。世。世。捨。て。一。生。涯。を。夢。と。暮。と。夢。想。無。窮。と。い。ふ。の
 め。り。う。渠。ま。ら。の。り。し。と。の。む。り。年。由。十。六。む。さ。の。四。四。七。字。の。假。名。川。る。
 浦。嶋。塚。の。ほ。ろ。う。は。位。ひ。く。こ。ま。夥。の。春。秋。と。む。く。風。も。樽。と。お。て。釣。と
 細。と。よ。世。と。は。て。菊。を。東。籬。の。下。ま。採。ら。ね。ど。五。斗。米。は。腰。袋。を。折
 り。ぐ。上。て。て。り。及。ぬ。る。の。ま。り。た。と。雨。ゆ。ぬ。日。も。笠。と。放。さ。て。心。と。ま。海
 原。の。廣。は。よ。比。常。は。一。葉。と。ほ。く。て。一。瓢。の。酒。と。た。の。と。眠。て。船
 と。ま。え。う。ま。外。と。求。ま。り。ま。一。日。遊。谷。子。が。著。一。たる。和。在。去。傳。と。い。冊。子
 と。ら。ん。一。と。ま。や。老。佛。道。を。踏。ま。り。く。ま。り。く。能。書。究。く。精。細

るれども。馬。鹿。は。附。る。葉。も。う。ま。在。子。か。ら。う。り。上。手。達。磨。か。て
 分。別。も。あ。が。う。う。ま。り。銚。子。し。ん。惜。ま。ど。も。近。属。表。と。い。早。嶋
 の。席。薦。へ。ら。ら。る。酒。と。海。と。と。た。類。の。え。う。う。の。酌。と。る。女。子
 の。ん。夫。心。帝。薦。か。ほ。ま。は。會。帝。ハ。繁。昌。せ。と。頭。か。元
 ね。バ。松。魚。も。下。司。の。ま。の。ハ。い。と。ど。人。同。萬。事。塞。翁。が。馬。乃
 糞。で。菊。と。つ。ら。う。く。由。鑣。虫。が。飲。バ。も。あ。う。と。私。在。兵。衛。も
 狗。と。の。う。と。と。暴。風。み。も。あ。へ。う。と。暴。風。よ。あ。れ。と。と。
 嶋。め。ぐ。り。由。と。と。嶋。め。ぐ。り。と。と。ハ。貧。福。窮。達。の。理。を
 悟。え。う。と。と。貧。福。窮。達。の。理。と。悟。と。と。何。と。り。と。和。在
 兵。衛。と。い。ん。画。よ。う。と。綿。と。盛。と。坂。と。見。て。脾。腹。は。腹。は。備
 じ。憂。日。つ。も。食。入。る。久。葉。公。由。龍。と。と。真。の。龍。乃



まよりの舟

浦島太郎



浦島仙人

浦島太郎

郷との煩悩郷とのいひ。食言郷とのいひ。飲楽郷とのいひ。おしく風は随て
到んと自在に。努力疑ふのふれといふことを人の取ら滅て。釣竿
のほど遺るる

少年團

夢想兵衛の浦島が授かる釣竿とりとる。とを削りて骨とほ。さ
あつ紙老鴉と張らくちと細きと教は侍て。釣糸の糸はつけられ。その
具合もつらき。章魚とりて。鳥賊とりて。釣箱の縁もあり。
牛と女子の形ひう。鼻を通るといふ。藤よりき。とや仙人よりき。ま
ま。気があ。忽地雲は糸が。とを假名川の臺より出。糸の
末とね。結とめ。その糸の紙鴉の背は。つた。風のりて。わくを。釣
り。東風をよくと吹。ふ。不思議やとの紙鴉。夢想兵衛と。糸を

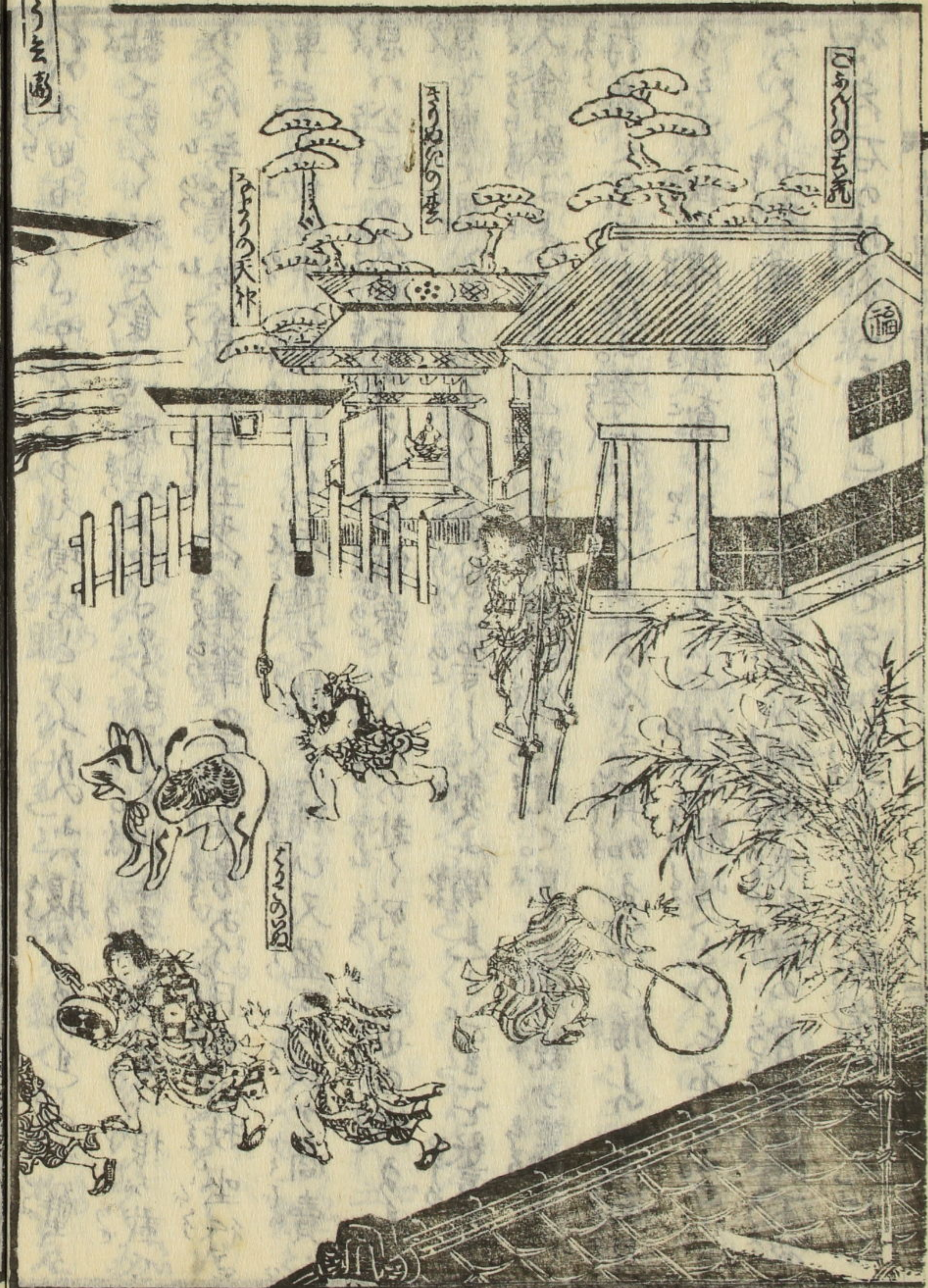
空中は閃き。升り。雲を霞との。と。短く。糸の。絡を。と。空
中。は。長。く。富。士。山。の。頂。上。と。い。ふ。ま。ま。で。よ。り。夢。想。兵。衛。と。
と。め。を。落。ま。い。と。い。ふ。一。か。不。恥。ま。さ。著。る。も。居。る。と。その。紙。鴉
ち。ん。と。住。む。動。る。ね。が。危。ま。は。到。り。て。ち。ん。と。い。ふ。も。板。三。寸。下。の。地。獄。と
ま。り。な。ら。う。海。難。あ。つ。て。世。と。な。る。の。も。あり。梢。五。六。丈。上。り。う。落。ま。さ。ば。命。は
か。げ。が。え。が。あ。つ。て。も。それ。限。り。と。い。う。ま。ま。枝。と。あ。つ。て。樵。夫。も。あ。つ。て。外。う。ら
陸。む。や。う。あ。あ。じ。物。ハ。の。り。ち。り。貧。乏。も。貧。乏。漆。を。借。銭。を。苦
よ。う。ね。道。理。と。早。合。点。と。い。う。漁。哥。う。い。る。が。下。界。通。り
直。つ。や。が。ら。ど。名。は。少。年。團。郡。ハ。何。と。い。や。う。と。水。子。と。あ。つ
て。この。処。の。人。物。を。悉。く。掃。見。や。う。その。好。景。繪。は。画。と。小。人。島。は。異
る。亦。彼。塞。の。河。原。は。似。う。と。い。ふ。と。い。う。と。化。生。よ。て。



五ノ月廿一日

五ノ月

五ノ月



五ノ月

五ノ月

五ノ月

五ノ月

五ノ月

五ノ月

年より十五六歳と一期とく。衣服と肩と腰と縫ひあげの字袋と迷
 子札と著るものあり。頭髪も小判形は頂顛のま中と剃り四方髪まで
 かく四さう結の蜻蛉髪もあり。女子坊主もあれど月代を剃髪せぬ
 ことと婦人女髪もいふむ髪も。天窗少の内雲も引鼻も水柱のり
 ともあり。弱は強は征せられてこれを餓鬼大将と仰ぎ樹は攀るる猿
 猴のどく水と城ぐら河童のどく。草は隠ると鬼のくく俗るとは
 鳥は似る。衣裳は縫裂と厭む。肢體は生疾と厭む。犬とけけけけ
 棒とよや。嵐と愛して冷と鳴る。春は紙鶴は飯時を忘る。鄰の
 梅花とらじ夏は蟬と捕る。蝙蝠とたれかて。母益の殺生と樂しむ。
 秋は野ぶるは蜻蛉と逐ひ冬は背門は氷と碎る。雪は氷團め虫を集れ
 ども。これと燈や。書と讀まるとのまど。只月の勢とる。亦朝のユツク。

昼のハツ中。机はむらひ。筆とそれども一畫一点も習ひ。人形の首も
 り飽きて。草紙へ水とけけ。勘定とあり。牛もせぬ小便もけけけ。立て
 傍車。草履とかく。かたも。の。厠へり。掃桶の桃の樹はを
 けけ。大小便の番れも。その敷つて。え。け。筆と紙と。洗滌を
 つけ。手と塗面と塗ると。草紙より黒く。湯と袖と。土間を。洗
 ぬ。人の前へ。出。指と銜え。後巡。袋と被つる。猫のどく。と。入
 弱を。罵。膝と。皮。剃刀のどく。或は好む。ぬ。踏
 こ。雪踏の。と。厭む。或は障子を破る。行燈は。穴と。壁を。や
 て。土と。食ひ。持。と。線香と。食。の。の。罪。か。師
 道尊者。己む。紙。札。の。茶碗。水。を。入。四。鄰。を。動。の。を。

此地の國法ハ罪あつて答ふと死すや、あけさ 晩去まじ。あつて責む。或ハ醫と
あけさ つり或ハ背と打ふ。蔑のつらぬやうよとるをよの痛む。細引まそつと縛り押
あけさ 入戸棚へ入まそつと刑罰の第一とて。お母くハ昼の約燈ハ火をさし
あけさ 見せと懲とのもみる。是天矢楛の閑閑より。今よ至つて。あけを管領
あけさ あり。而親尊者。惑溺恩愛の他法あれば至て。あけを管領より。今よ至つて。あけを管領
あけさ 下賤の男女。その法を怖まじ。よろづおのが怒よとるをよ。而親尊者へ
あけさ 苦勞とりけ。眞罰終よ脱まそつて。身のお死とらるる。ゆあり。その中
あけさ 鼻の下ハ長さりのあり。鼻の長さりのあり。あけのせりあり。鼻の下
あけさ の長さりの生涯。そつと之の長さりのあけを貪り。手の長さりのあけを盗む。あけ
あけさ ども。而親尊者これとまじ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ とあけ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。

賞罰正しく。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ 食と。桃柿。梨子。蒲萄。甜瓜。西瓜。蜜柑。九年田。と食ふ。と。餓。と。猿。の。あけ
あけさ 唐茄子。と。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ の類とて。甘れと嗜む。酒と煙草とのあけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ 内は麻上下と引け。と。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ ぬりあ。上下とあけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ のぶく。飲とあけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ カとひけ。と。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ 冷さ。三月八日の吹草。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ 誠とあけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。
あけさ 打つとあけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。あけとるをよ。

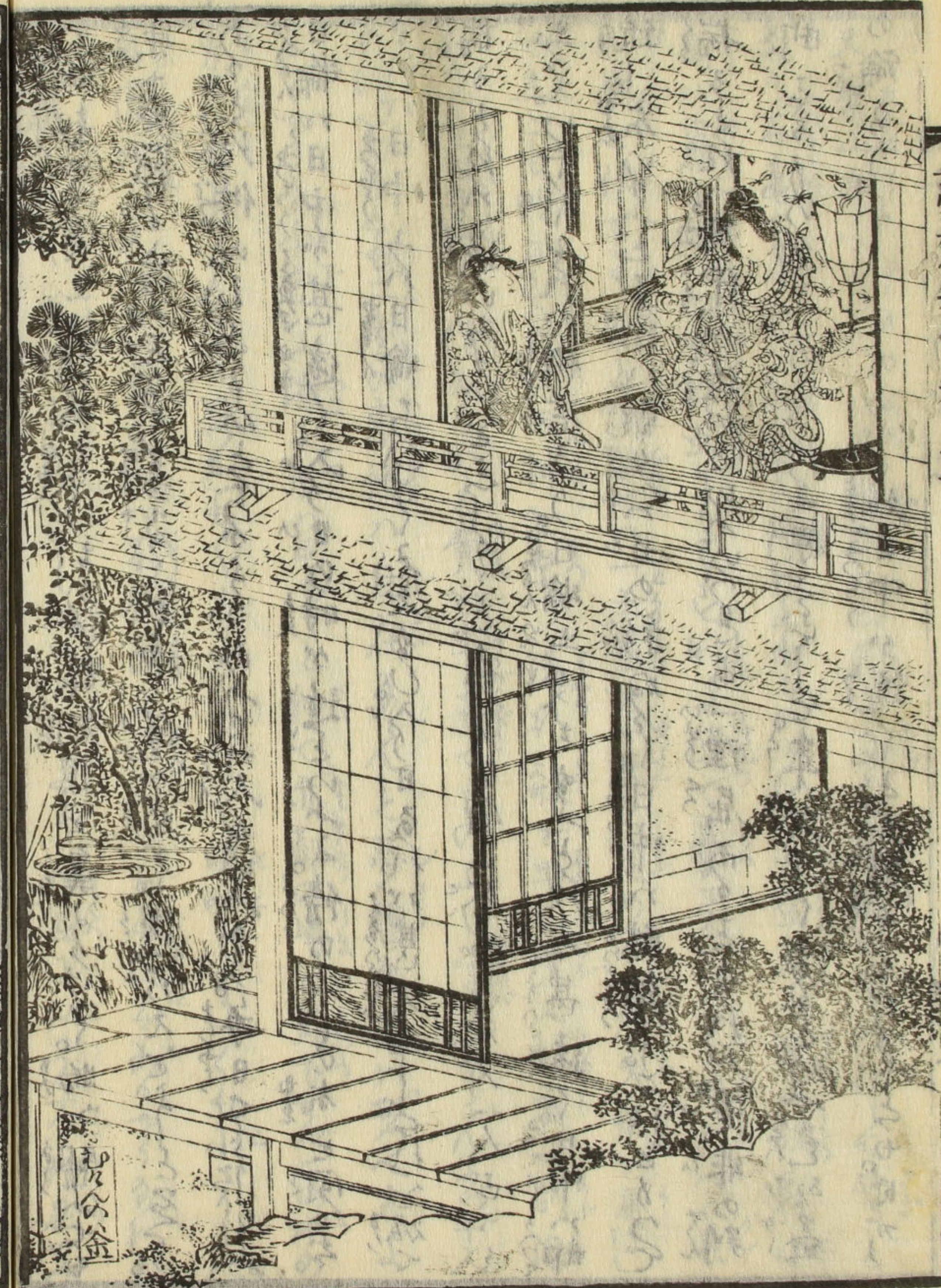
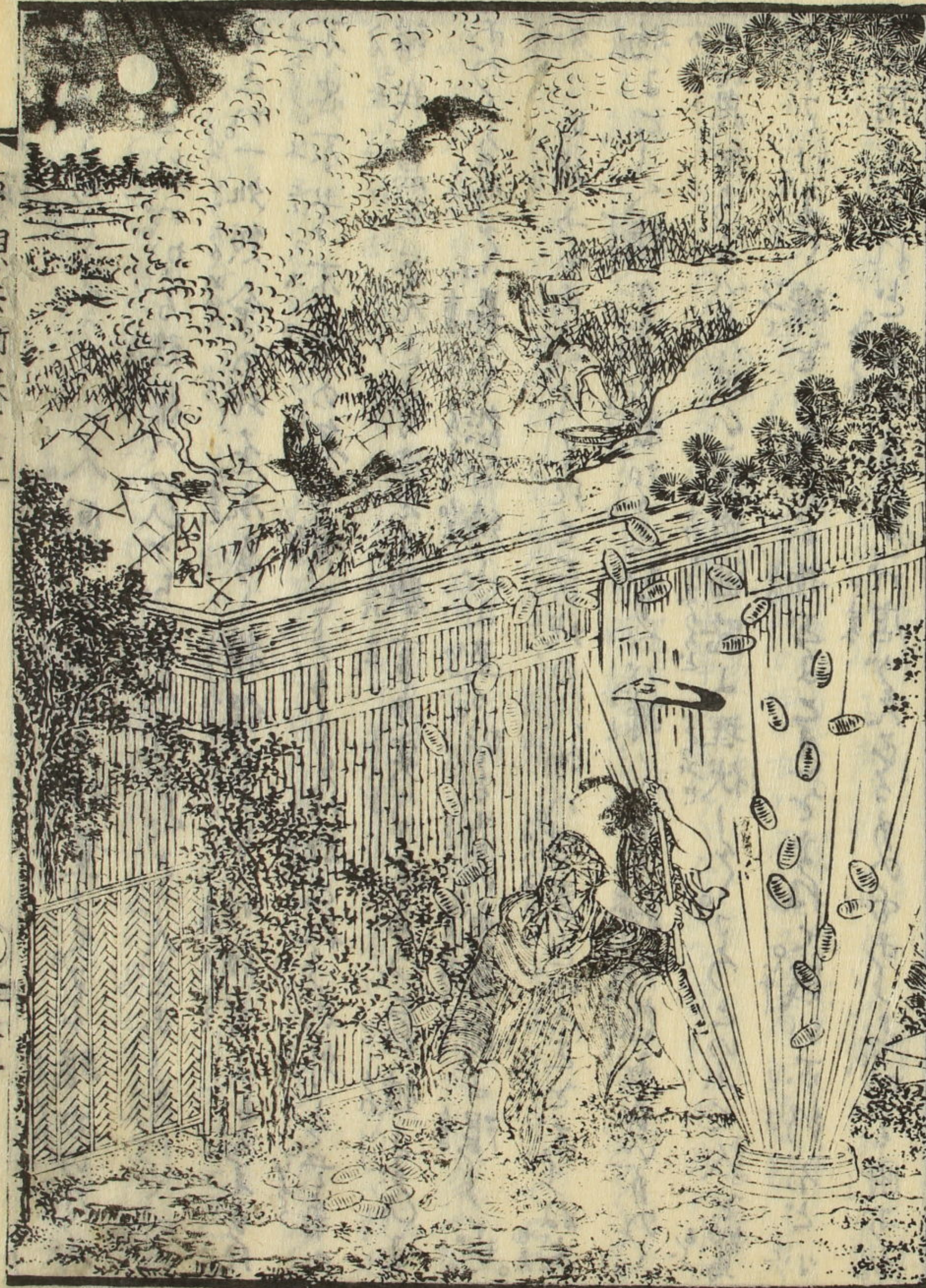
ありて袴を脱ぎ女子の七束を脱ぎ紐を解と驕奢の末めとして祭の練物よまをせ生
 涯の面目とそふるほど。さき耳目を驚かすことどもなれば。夢想兵衛の再び悟て
 ぞいじ小膝と礎と打子を親と教ふるは又の過あり。訓導すその嚴りとするの
 師の情まると又教師嚴まると両方とも外多けほど。子向の成らざるは子の罪
 あり。と司馬温公がいひんも。とさういふ。夫又子の一體分身の又これに教ふる
 子より直紙書が。名と揚家をも貞とす。又教ふるも。その子まざるは子か
 月を愛せざる。子よ志ありといふども。その父は是を教ふるの子と毒あるあり。
 不幸つづまる甚く。とんらの不教嶋の形勢をえさか。飽まで食はせ暖衣
 夜せ一奉りと教ふるは多し。親を嚴む。賞罰正しくするなよ。その志は情り
 けし。この人の子を遠ざかるよ。勢ひ移されば。これを責ると其しけ。是は
 終る愛と失りんと紙もよが。必し。師とえり。されば師の思は又母の

亞あり。つれて釋鬼の物をとる。その教ふるは。おぼ。いし。一字を十
 金と定む。今の教百字を習ひぬ。五節供銭の二百文で。過去の謝儀に
 とせり。文字の相場。もさ。わ。く。ま。よ。直。さ。る。り。ま。世。に。筆。文。目。の。交
 互。や。と。く。賣。り。や。と。く。買。ふ。文。字。の。相。場。よ。さ。る。る。と。されば。あ。や。も。習。う。と。

三年よ。と。假。名。半。奉。の。二。三。奉。も。あ。り。ま。す。名。物。の。用。よ。ら。ま。と。お。不。え。負
 之。人。の。子。よ。あ。い。の。い。ぬ。り。の。お。と。師。匠。よ。ま。ま。り。ひ。て。年。季。奉。ま。よ。出。し
 一。不。が。つ。か。家。よ。抱。ん。で。わ。り。や。あ。り。ま。す。年。中。二。度。の。宿。り。を。待。た。ね。て。使。し
 出。す。こ。り。さ。の。親。里。へ。ま。り。檀。那。の。迎。ひ。の。桃。丁。り。つ。く。ゆ。く。と。い。つ。て。の。親
 里。へ。ま。り。ん。が。西。親。と。い。つ。と。吐。き。あ。り。ま。す。暮。る。ま。の。回。か。あ。り。ぬ。飯。こ。り。て
 かけ。好。む。唐。茹。子。煮。て。あ。り。ま。す。食。物。か。ら。ん。や。内。よ。わ。さ。れ。ま。す。瘦。ま。す
 小。や。と。負。苦。勞。か。さ。て。あ。り。由。深。と。黄。楊。の。櫛。と。さ。る。と。髪。の。お。ま。毛。を。撥。き

又築山泉水多き。四方僅に二三尺よこさず。鳥賊の甲の化しと
 る。石亀つらあげらる。囚げもよみひらく。金魚と鹽は放され。小
 鳥の窓よ啼。松虫鈴虫さうくと。時随て養ぶるころ。井戸の負
 之務と伏せく側と。田地の一土器と一反と定めく。農夫耕と肩は
 てまごも耕さざらぬの天神とあり。流石款を早く覚え。餓賣と別保
 あり。屋基店よ借あり。かる費を半者てのよ。学しよんあの人
 の師とさるも。二季の東脩の自在あるんと。夢想兵衛のあつてよ
 まるやうな。小言の隙よ糸ひまると伸て。赤那の嶋と直ちまがら地の
 男女の年よりませく。いざあくあつらう。嗚呼が年々くも小言死
 才發作とさるまじう。されば不教島よ品うら。ちと極とあるやうあれど。
 遠慮も無く。會釋もあ。そ出口を利と。理屈よ似る不理屈よ

て両親者をやめな。ものが操利根を鼻よりけく。物を習めても
 ままでさげ。とりよま。あつらひよ。横ぐらえとよとさる。
 あつた件の小言ふと。あつらひよ。あつて一人がひま。毎日さる。
 日輪の日中が甚遠く。入り日の時が近といふ。傍の人よ。あつと。
 さん。日中少の日輪らひさる。ええ。ひ入り日あれば甚遠く。されを
 揃ると。遠い。ちい。と。あつらひよ。あつて一人。あつと。
 出く。や。と。の。日輪出。あつと。甚遠く。日中。あつと。
 近。あつと。朝夕。日。あつと。日中。あつと。あつと。
 揃。あつと。日中。あつと。あつと。あつと。あつと。
 断。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。
 の。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。あつと。



高木八生

和の金

伊らうよやくとるふぬ人間ヶ。下思々推量して。眼力の及ぶ
 かけをりへが。かる理屈のひびからるる。とてく人とありそひで叶
 ぬまの。一知無命の地を。ある横領せり。時款身よおろえり。死
 不忠不孝。不義の名を。負せり。とれ款され。外の外と。世用の
 辨。我意と。そんと。とるゆえ。戲言由。実る。より。それ彼。かひよ
 あつらう。長く。怨を。締ぶ。に至る。かる。少年。國は。限らじ。
 外の。嶋。少。あ。え。り。これ。て。る。地。の。人物。ハ。堪。忍。と。い。ふ。正。と。志。ぬ。な
 物。よ。く。情。が。あ。り。親。む。と。あ。り。ハ。疎。く。あ。り。何。の。怨。も。あ。い。り。の。
 天。恩。と。ち。よ。い。と。い。ふ。遊。曲。路。よ。埋。伏。し。く。ま。う。と。り。み。て。人。を。驚
 う。し。け。る。く。磔。と。う。ら。る。物。ぶ。よ。こ。を。ま。ね。て。賤。い。ふ。け。り。ど。小
 器。用。よ。と。れ。と。孟。母。の。け。こ。バ。店。が。え。る。り。の。も。あ。い。ど。かる。團。あ。も

蓬。よ。わ。ら。る。麻。の。い。く。才。儼。の。支。嶋。よ。孝。行。島。と。い。ふ。瘦。地。あ。り。空。運
 僅。よ。四。五。行。よ。こ。え。れ。ど。も。の。島。の。男。女。ハ。兩。親。者。と。そ。敬。し。て
 身。の。為。と。い。ふ。或。も。雪。の。中。よ。筆。を。掘。く。こ。を。ま。わ。せ。或。ハ。氷。の
 上。よ。鯉。を。獲。て。こ。を。ま。わ。せ。兩。親。者。者。よ。廉。畧。よ。る。と。と。こ。こ
 子。と。生。ら。ぶ。め。小。せん。と。と。黄金。と。掘。出。し。る。り。の。も。あ。り。と。て。こ。の
 嶋。の。人。氣。亦。和。み。て。兩。者。者。の。言。察。よ。違。い。と。言。者。病。者。ハ。時
 の。昼。夜。由。新。る。く。看。病。し。或。ハ。今。昔。四。表。八。表。の。物。が。け。り。て。後。世
 と。慰。め。その。心。成。す。と。め。す。わ。ら。せ。ん。と。と。こ。を。勉。め。く。せ。の。ど。く。る。あ。り
 あ。い。ひ。の。こ。も。実。情。よ。出。く。穢。の。至。ま。る。あ。り。かる。か。よ。天。道。こ。を。と
 憐。こ。こ。を。恵。と。く。さ。ひ。け。ら。る。洪。福。と。ぬ。り。よ。の。只。の。島。よ。限。ら。じ
 後。想。兵。衛。ハ。こ。も。の。好。景。と。見。く。望。よ。感。涙。と。拭。ひ。あ。い。ど。寔。よ。孝

と不孝ハ天性有り。鳥の反哺も羊の跪く乳を吸ふも。雁の長か
 の列と乱るぬも。推教するありざるよ。おのづからかゝのまゝ。かゝその似
 うるとりて推すも。鶴の反哺をあらうど。豚も跪て乳を吸ふ。鳥も
 長かの列とちりど。世は孝行する子とりて。老樂は終するハ
 善種を尊む。親の吾報。不孝な子とりて。年ふくく苦学するも。
 悪種を時と親の悪報。豆と執事。豆が生粟と執事。粟が生善
 と積ば。吾人な子孫が出来。悪を積ば。悪人な子孫が出来る。己
 より出づ。己は返る。りのる。己は。己の國の治る。ぬと。國王の不徳。その家
 のおさす。ぬと。主人の不徳。その子の教。死を親の不徳。その身乃
 容らざる。己が不徳。れば。人と恨む。愚癡の至り。子は孝と教。己
 まく。その不孝を責む。りのる。耕さず。耘ど。て。る。ぞ。稲が登る。ぬと。て

田地を罵るやうなり。あり。子とまらけ。を。氣のつ。まら。の。の。は。
 朝もたや。く。起夜もおそ。寐。暑中も肌わ。く。寒の日も炬燵へ。寐
 まら。ん。胡坐。く。て。飯食。ど。寐。さ。ん。ぐ。と。る。い。ま。ど。假初。も。虚言。つ
 ぐ。ど。理非。を。明。し。決断。を。速。し。賞罰。を。正。く。と。ね。ば。家内。の。りの。と
 及。伏。せ。ど。ど。腹。の。ら。つ。や。ま。よ。叱。ら。ぬ。もの。の。口。を。さ。く。と。つ。け。我
 機嫌。の。ふ。を。う。ハ。叱。ぶ。さ。る。も。叱。ら。ぬ。た。吾。惡。的。的。を。外。へ。と。る。ハ。道
 へ。こ。け。る。あり。衣。食。よ。る。ま。る。家。も。礼。節。あ。の。づ。ら。整。ひ。と。推。教。を。ね
 ども。親。の。手。を。つ。く。り。の。り。の。と。ら。る。え。朝夕。の。機。嫌。伺。ふ。より
 外。よ。親。と。と。鼻。つ。か。め。り。と。わ。る。も。稀。な。れ。ば。叱。り。も。せ。ど。叱。り。る。と
 由。り。な。れ。ば。下。賤。の。りの。家。を。お。さ。む。ハ。さ。ら。苦。し。め。り。の。み。く。明。も
 暮。て。も。五。更。り。六。更。の。席。蓐。の。ふ。よ。親。子。兄弟。寐。り。起。り。と。二。件

稚児の親と慕ふ人。成長ても父母を慕ふ。孰り不孝なり
 至るべき。親の膝の上へ臥居る。是れ孝なり。其の如く成る
 事。よらるる。その情欲心と欲心よ。ゆゑに親をりやせぬ。其の如く
 て。後よ愛と父母よ失ひ。天地よその身を容れず。道と慕ふ
 ゆゑに暗く。親と慕ふ。是れ孝なり。其の如く成る。

夢想兵衛胡蝶物語卷之一

夢見の親と慕ふ人。成長ても父母を慕ふ。孰り不孝なり
 至るべき。親の膝の上へ臥居る。是れ孝なり。其の如く成る
 事。よらるる。その情欲心と欲心よ。ゆゑに親をりやせぬ。其の如く
 て。後よ愛と父母よ失ひ。天地よその身を容れず。道と慕ふ
 ゆゑに暗く。親と慕ふ。是れ孝なり。其の如く成る。

